

さわべス2016 文庫編

SAWAYA BEST

(15年11月23日さわや書店スタッフ選考)

順位	書名・著者・出版社	コメント
1位	負ける技術 カレー沢薫/講談社文庫	勝利が敗北の始まりの世の中、最初からちよい負けでいいじゃない。 本書は今年のさわべス“No.1”文庫です。 (フェザン店 武蔵)
2位	その日東京駅五時二十五分発 西川美和/新潮文庫	広島出身の西川さんが伯父の体験をもとにあの戦争の8月15日を描いています。戦争、原爆、あとがきに震災をからめて心に残る小説になっています。 (上盛岡店 大池)
3位	釜石の夢 大友信彦/講談社文庫	2019年、僕は必ず釜石に行く。 そしてこの本をスタンドのどこかに置いてこよう。 (フェザン店 松本)
4位	史上最強の哲学入門 飲茶/河出文庫	人生で一度も“哲学”に触れたことがない方。おめでとうございます。あなたこそが、本書の一番の読者です。 (フェザン店 長江)
5位	女子学生、渡辺京二に会いに行く 渡辺京二 津田塾大学/文春文庫	本書で渡辺京二が語る“真理”を、親が僕に言い聞かせてくれたら、僕は親のことをもっと尊敬したに違いない。 (フェザン店 長江)
6位	安井かずみがいた時代 島崎今日子/集英社文庫	1960年後半から70年前半は安井かずみの時代だった。女性は誰もが憧れたと思う。26人の友人がその姿を語る。 (上盛岡店 大池)
7位	ミラノの太陽、シチリアの月 内田洋子/小学館文庫	個性的な人物たちが繰り広げるドラマチックな人生。イタリアからの小説のようなノンフィクション。文章も心地いい名エッセイ。 (本店 竹内)
8位	聖の青春 大崎善生/角川文庫	これほどのノンフィクションは、そうそう出るものではありません。将棋を知らなくても大丈夫。「将棋の子」と共に、騙されたと思ってぜひご一読を。(総務部 赤澤)
9位	クラン I 沢村鐵/中公文庫	絶望か希望か。警察内部の闇に挑む警察官。葛藤と衝撃的真相のなかで見える人の優しさと正義に注目して下さい！ (上盛岡店 佐々木)
10位	三陸の海 津村節子/講談社文庫	吉村昭さんとともに三陸海岸を愛した津村節子さんが、震災後の三陸を語ります。三陸海岸への愛がいっぱい入った本。 (上盛岡店 大池)